

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 7 月 29 日 (2021.7.29)

【公開番号】特開 2020-471 (P2020-471A)
 【公開日】令和 2 年 1 月 9 日 (2020.1.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-001
 【出願番号】特願 2018-122547 (P2018-122547)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 6 月 21 日 (2021.6.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技盤、前記遊技盤の保持枠又は前記保持枠に取り付けられる補助枠に設けられて所定の遊技演出に基づく制御信号により駆動制御される電氣的駆動部を有すると共に所定の区間を往復移動可能な可動部と、

前記制御信号を前記可動部に出力可能な制御部と、

可撓性を有し前記制御信号を伝達可能に前記可動部と前記制御部を接続する配線と、

関節部により屈曲可能に接続されている複数の分割ケース部を有しており一端側が前記遊技盤、前記保持枠又は前記補助枠に取り付けられ他端側が前記可動部に固定されてこれらの分割ケース部内を前記配線が挿通されている配線ケースと、

を備えることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記配線ケースの前記一端側は、前記遊技盤の盤面方向及びその反対方向にスライド移動可能に前記遊技盤、前記保持枠又は前記補助枠に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

前記配線ケースは、前記関節部を 2 箇所以上に有し、

前記可動部は、前記所定区間を直線的に移動することを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記配線ケースは、遊技盤に接触しない範囲内で当該遊技盤に向けて前記関節部が突出するように屈曲することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 の何れか一項に記載の遊技機。

【請求項 5】

前記配線の前記可動部側は、前記可動部と前記配線ケースの前記他端側とにより挟持されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 の何れか一項に記載の遊技機。

【請求項 6】

前記配線の前記可動部側と前記可動部との間、及び／又は、前記配線の前記可動部側と前記配線ケースの前記他端側との間、には緩衝部材が介在していることを特徴とする請求

項 5 に記載の遊技機。

【請求項 7】

前記配線の前記可動部側は、前記可動部に対して粘着テープにより貼付されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 の何れか一項に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

この様な遊技機によれば、可動部が有する電氣的駆動部とこの可動部に制御信号を出力可能な制御部との間を接続する配線は、可撓性を有すると共に、配線ケースが有する複数の分割ケース部内に挿通されている。そして、複数の分割ケース部は、関節部により屈曲可能に接続されており、一端側が前記遊技盤、保持枠又は補助枠に取り付けられ他端側が可動部に固定されている。これにより、可動部が所定の区間を往復移動しても、このような配線は、可動部の往復移動に伴って屈曲する配線ケースの分割ケース部内に存在するため、配線ケース外で移動する可動部に対して配線が接触するのを防止することが可能となる。

(1) また、第 2 発明の遊技機は、第 1 発明の遊技機において、

前記配線ケースの前記一端側は、前記遊技盤の盤面方向及びその反対方向にスライド移動可能に前記遊技盤、前記保持枠又は前記補助枠に取り付けられていることを特徴とするものである。

(2) また、第 3 発明の遊技機は、第 1 発明又は第 2 発明の遊技機において、

前記配線ケースは、前記関節部を 2 箇所以上に有し、

前記可動部は、前記所定区間を直線的に移動することを特徴とするものである。

(3) また、第 4 発明の遊技機は、第 1 発明乃至第 3 発明の何れか一つの遊技機において

、前記配線ケースは、遊技盤に接触しない範囲内で当該遊技盤に向けて前記関節部が突出するように屈曲することを特徴とするものである。

(4) また、第 5 発明の遊技機は、第 1 発明乃至第 4 発明の何れか一つの遊技機において

、前記配線の前記可動部側は、前記可動部と前記配線ケースの前記他端側とにより挟持されていることを特徴とするものである。

(5) また、第 6 発明の遊技機は、第 5 発明の遊技機において、

前記配線の前記可動部側と前記可動部との間、及び／又は、前記配線の前記可動部側と前記配線ケースの前記他端側との間、には緩衝部材が介在していることを特徴とするものである。

(6) また、第 7 発明の遊技機は、第 1 発明乃至第 6 発明の何れか一つの遊技機において

、前記配線の前記可動部側は、前記可動部に対して粘着テープにより貼付されていることを特徴とするものである。